

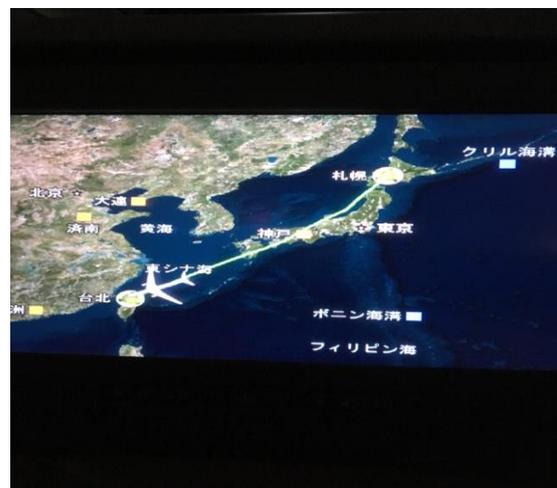
台湾・芸術研修のまとめ

教育文化学部芸術学科 2年

私たちは8月23日から27日までの5日間、台湾に海外研修をしに行きました。この研修は芸術学科で行われる専門分野別の海外研修で主に服飾、建築の分野について勉強して来ました。

まず、この研修に参加するにあたって学内選考をし当日までの間にも何度かオリエンテーションをして台湾の文化や歴史にも触れました。その時の自分はまだ研修に行く実感も無く、台湾についての知識があまりありませんでしたが、回を重ねるごとに段々と研修当日に近づいている実感が湧いてきて、台湾について調べたり現地でやってみたいことなどを考えるようになりました。海外に行くのは初めてだったのでパスポートを作ったり荷造りをしたりなど準備の方が大変だった気がします。準備もギリギリで間に合い安心しましたが前日の夜は楽しみにしてるせいかあまり眠れなかったです。

当日新千歳空港から飛行機に乗り台湾へ向かいました。飛行機のフライト時間はおよそ4時間で想像していたよりも早く、こんなにも早く海外に行けるのかと思いました。新千歳空港から台湾桃園国際空港までは2,715kmと沖縄の石垣島までの距離とそんなに変わらないです。そう考えると、意外と台湾は日本から近く、行きやすい国だと感じました。



そして無事に台湾桃園国際空港に到着したのですが、飛行機を降りたらもうそこは台湾で、日本とは全く違う景色、人が目の前にいるので海外に来た感じがして興奮しました。話す言葉や電光掲示板に表示されている文字、全部が日本と違うので着いて早々苦労していました。また時差も日本と比べると-1 時間なので初めての時差というものを体感しました。時差ボケするのか?とっていたのですが、さすがに1時間の違いなので全然平気です。

長い研修はここから始まります。その後台湾に着いて初めての夕食を食べたのですが、日本のレストランとは違い台湾のほとんどの飲食店では円卓の周りに座り大きなお皿に盛られた料理をみんなで取り分けて食べるという習慣があり、円卓を回し遠くの料理を取ったりすることもできます。料理もちろん美味しいのですが、最初は食文化の違いに慣れるのが大変でした。



2日目からは本格的に研修が始まり、今回研修を行うのは台北市という都市でここは台湾の首都であり人口は270万、8月の気温は高く35度でとても蒸し暑い天気です。

そんな中2日目からバテバテで汗が止まらないくらい暑くて普段過ごしてる気温とのギャップについていけませんでした。2日目は世界四大博物館の一つ、故宮博物院と実践大学に訪問しました。とても大きな博物館だったので台湾の歴史や昔の食器などを説明していただきながら見学しました、実践大学では台湾の服飾学生のショーの映像や建物を見て、日本よりも高い技術や屋上にバスケットコートがあったりと面白い造りの校舎にも感動しました。

夕食の後はタイペイ・アイという日本でいう劇団四季のような劇を観ました。タイペイ・アイでは台湾の楽器を使ってそれに合わせた動きでアクションをしていて想像していたものより迫力がありました。



3 日目は服飾のワークショップの見学や楽しみにしていた小籠包を食べに行きました。鼎泰豊(ディンタイフォン)というお店でとても人気で予約をしているのに20分も待たされるくらい混んでいました。本当に美味しくて今まで食べた中で一番の小籠包でした。さすが台湾と思いました。ガラス張りになっている向こうでは小籠包を作っている工程が見えて職人技の凄さを感じました。



その後は2グループに分かれて、別研修をしました。自分達のグループは迪化街を散策しました。迪化街は台北市の街区。歴史のある商店街、問屋街であり観光地としても扱われていて、街の風景や日本との違いが見れました。

夕食はこれも楽しみにしていた士林夜市です。台湾の夜市とは日本でいえば、祭りの屋台のようなもので多くの屋台やお店が並び食事や買い物などを楽しむ人々で賑わうもので、台湾に来たら夜市！というくらい沢山の人が行きたくなる場所です。日本の祭りに似ているところはあるのですが、食べ物が安く、沢山の種類があったり見たことのない飲み物やスポーツブランドのお店だったり本当に賑やかで楽しかったです。



4日目は台北のシンボルマークでもある台北 101 に登りました。台北 101 は名前の通り 101 階建の展望タワーで 89 階にある展望台からは台北の街の景色がとても良く見え綺麗でした。またこの展望台へ登るエレベーターはギネスにも登録された超高速エレベーターで地上から展望台までおよそ 30 秒でいけるととても速いエレベーターなのですが、日本の東芝が作ったエレベーターなのです。日本の技術がこういうところで役立つのが凄いなと思いました。



それから三越で服やお土産を買いました。やっぱり台湾はパイナップルケーキが有名でどこのお土産コーナーにも並んでいるお土産でした。

台湾での最後の夕食の後は、人生で初めての台湾式マッサージを受けに行き足つぼマッサージを受けます。先生に痛いと言われ最初はちょっと怖かったのですが、始まってみると意外と痛くなくて終わる頃には研修での疲れが取れているのが分かりました。ただ、自分だけみんなとは違う個室に案内されたのにびっくりしました。



研修の内容はこれで終わり、後は日本に帰るだけなのですが 4 日目の夜はとも台湾が名残惜しくまだ帰りたくないと思ってました。最初は不安で生活や習慣の違いに慣れることで精一杯だったのに、この時にはもう台湾の生活にも慣れ始めてきた気がします。

今回台湾という国で研修をし、色々な事を思いました。食文化のことは、円卓や夜市の屋台など日本との違いもありましたが、日本にも店舗を持つレストラン、ファストフード店、コンビニなど馴染みのある店があったり身近な食べ物も多く見られました。台湾の料理は香辛料が主に使われていて、辛い味がするものもあって最初は口に合いませんでしたが慣れてくると美味しいと思ってとても美味しかったです。

また、台湾の歴史や文化を知るのに多くの建物を見学してきました。その中で思ったのは博物館や昔からある建物を今でも残し、たばこ工場のように建物を新たに他の建物として利用していて台湾の歴史を守っていると思えました。台北 101 や実践大学などの建物は外観も綺麗なのですが中の造りもこだわっていて階段だったり廊下の細かいところのデザインセンスに感動しました。

そして台湾は服飾文化も盛んで迪化街にあるとても大きな布市場がありここは日本で買うよりもかなり安く生地が買えるため沢山の人が訪れていて、とても広いので全部回るのに何時間も掛かってしまいます。他にも五分埔服飾広場では婦人服、紳士服、子供服、靴、サンダル、カバン、アクセサリ、雑貨などファッションに関する物は何でも揃っていて観光客や世界各国のバイヤーたちからも大人気の場所です。台湾にはまだファッションに関するお店は沢山ありその数は日本よりも圧倒的です。

そして5日間台湾で過ごしてみて、一番感じたことは台湾の人の親切さです。台湾は世界一の親日国と言われており日本のことが大好きで日本のトレンドを取り入れたり目の前でその親日ぶりを体感しました。すごいと思ったのはコンビニで店員に道を尋ねた時にわざわざ店から出て教えてくれたことです。仕事中心なのにそこまで親切にするのかと思えました。言葉が通じなくても何となく分かってくれたり紙に書いてくれたりと本当に日本では見られない光景でした。また台湾の人でも日本語が少し話せたり買い物をする時でも日本語でコミュニケーションを取れたので安心感があって一人でも全然大丈夫でした。日本語が

通じなくても台湾語や英語で会話をし挨拶や感謝の言葉を言えたのはいい経験になりました。最初は外国語で話すのが大変でしたが使っていくうちに伝えたいことが伝わってるのを実感して楽しくなり自分から店員に話し掛けたりできるようになって自分の成長を実感しました。



5日間でも台湾の素晴らしさを知ることができ、今まで台湾に行ったことのない人や行ってみたい人、多くの人に台湾の良さを知ってほしいと思います。

研修を振り返ってみて、とても濃い内容で色々な体験ができました。台湾は本当に初めてで道や景色も知らないものばかりでしたが、台湾で過ごしていると様々な魅力に気付き充実した研修ができたことが自分にとって決して無駄にはならないと思います。

また行きたくて行けなかったところもあり『千と千尋の神隠し』の舞台になった九份などマンゴーかき氷も食べたかったのでまた台湾に行って研修ではできなかったことをしてみたいです。

この研修で色々なものを見て、色々な人と関わり、多くの体験をしたことで自分の今までの考えや視野が広がり成長することができました。台湾で学び吸収したことを残りの学生生活、2年半に活かし将来へ繋げて行きたいです。